

地域医療研修として4週間お世話になりました。新城市民病院での研修では、主に総合診療科の外来診察を担当させていただきました。また、外来からの入院患者さんの担当をさせていただく機会もありました。外来では特に腹痛を主訴に来られる患者さんを多く診察しましたが、腹痛だけでも部位や性状によって鑑別疾患が多数あり、問診や身体所見から情報を集めることの重要性を改めて感じました。健診異常の指摘をされて受診された患者さんには、二次的な要因がないかどうかを重点的に問診しました。クローズドクエスションの必要性が高く、新鮮な経験でした。

私が普段行っている救急外来の業務では緊急性の評価と初期治療を行うことが主だったため、今回初めて継続的な外来フォロー診察を経験しました。フォローの経過で患者さんの症状が改善していく様子を実際に診察できたことで、やりがいを感じるとともにより責任感も感じました。また、患者さんがどういった検査・治療を求めて受診されているのか、なぜ受診されたのかという点も大切にしながら診療を行っており、地域に根付いた医療の重要性を実感しました。日々のカンファレンスでは診療内容についても丁寧なご指導をいただき、非常に勉強になりました。

作手診療所や訪問診療に向う機会もありました。作手診療所では限られた医療資源のなかで診療を行う先生方の姿が印象的で、また待合室で患者さんが親しげに会話しながら待たれている様子も診療所ならではの光景と感じました。訪問診療では終末期を自宅で迎える患者さんの診察に同行させていただきました。患者さんが良い人生の終わりを迎えらるるようサポートするご家族の姿や患者さんの穏やかな表情を見て、自分や家族の人生についても考えさせられました。先生の訪問診療への熱い思いも身に沁み、十分な医療・介護を受けられる環境は、周囲の人の助けがあつてこそだと改めて感じました。

研修期間中は緊急事態宣言下であり毎日の朝の勉強会は経験することができませんでしたが、自分の発表のために興味のある分野についてガイドラインや論文を調べ、根拠を得るための検索の方法などを学ばせていただきました。今までは論文の Abstract をなんとなく読み、考察と結論を確認して、という雑な読み方でしたが、PICO という概念に沿って論文の良し悪しを吟味しながら理解を深めるという方法があることを初めて知りました。また、臨床で出会った疑問もその種類によって調べる媒体を変える必要があることを教えていただき、非常に勉強になりました。今後、専攻医としてEBMに基づいた診療をしたり、論文の読み書きをしたりする際には、今回のEBM勉強会で学んだことを思い出しながら業務に当たりたいと思います。

最後に、1か月と短い期間ではありましたが、上級医として日々指導をしてくださった先生をはじめ、総合診療科の先生方には大変お世話になりました。至らない点が多々あったと思いますが、外来看護師の皆様や院内スタッフの皆様にも温かく接していただき感謝しております。ありがとうございました。